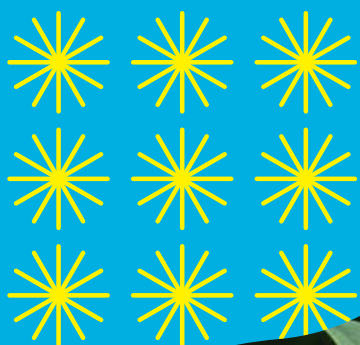


オオハンゴンソウ^{から} 国立公園を守ろう。



北米生まれ
国立公園に侵入中



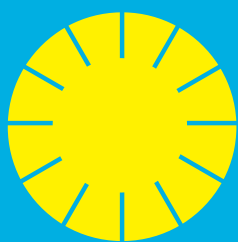
種が
できると
黒っぽくなる

葉の表面は
ざらざら

茎は
ヨリ
たたく

この花にご注意ください！

家の近くで



見つけたら駆除しよう

OHANGONSO
MANUAL GUIDE

オオハンゴンソウ^{から} 国立公園を守ろう!

駆除してみよう!

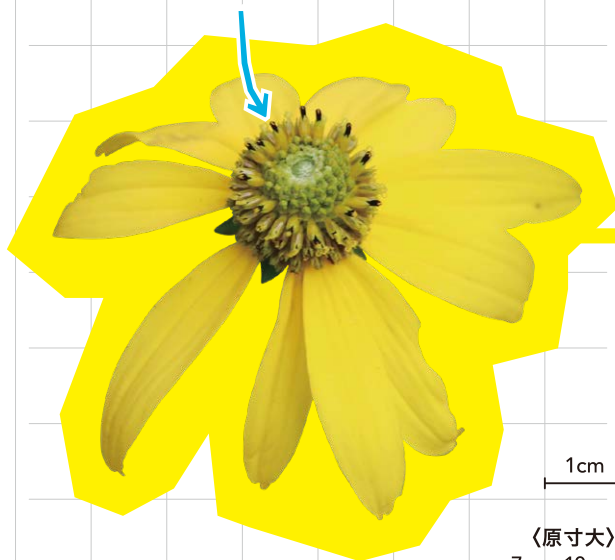
どんなところに咲いてる?

道ばたや荒地、河川敷など、日当たりが良く湿ったところに群生をつくります。高さ1~3mに成長します。

1 この花を探そう!

8月ごろから咲き出すので、種ができる8月下旬頃までに駆除しましょう

花の真ん中の玉は小さな花が集まったもので、若いときは黄緑色をしています。



種ができると黒っぽくなる



ポイント

種がつく前に抜いていこう



葉



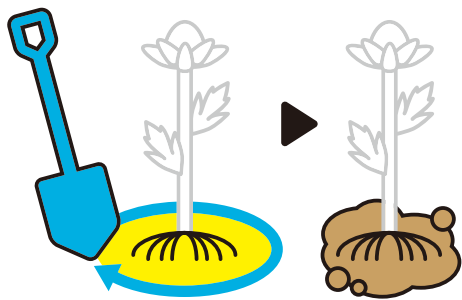
茎

花が咲いていない5月から7月は葉や茎などで見分けて駆除しましょう。

2 引き抜く or 刈り取る

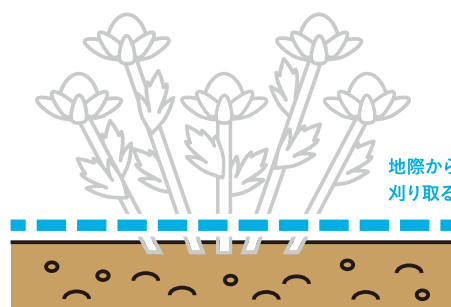
ポイント

種を落とさないように気をつけよう!



多年草のため、根が少しでも残るとまた生えてくるので、根から全体を抜き取りましょう。

根絶を目指すことができますが、なかなかの重労働です。

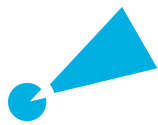


地際から刈り取る

鎌や刈り払い機で、根元を刈り取りましょう。

簡単に広範囲の処理が可能です。根が残っているので根絶することはできませんが、分布拡大を防ぐことができます。

3 ルールを守ってしっかり処分



袋に入れて
密閉して枯らせる



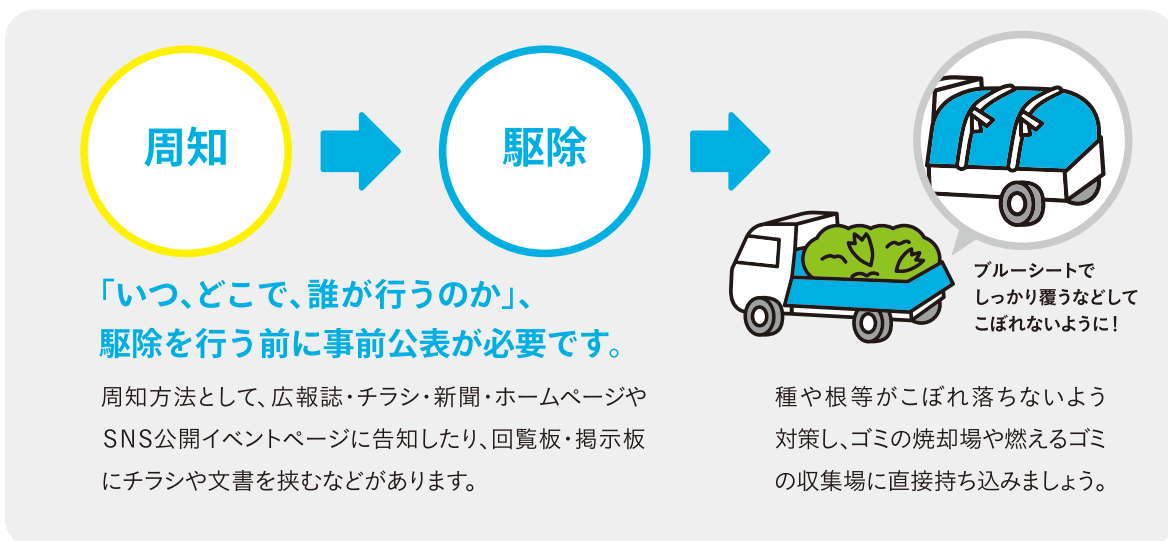
外来生物法でオオハンゴンソウを「生きたまま運ぶ」ことは原則禁止されています。このため、枯らしてから運ぶ必要があります。



枯らすことができない場合



地域住民や自治体、ボランティア団体等による小規模な駆除は手続きを行うことで法律に違反することなく、すぐに運搬処理を行うことができます。



量が多くなる場合などは、事前に自治体に相談しておきましょう。

！どうして駆除が必要なの？

国立公園の自然を守るため

十和田八幡平国立公園では、すでに広い範囲で分布が確認されています。オオハンゴンソウは繁殖力が強いので、涼しく湿った環境を好むため、高山植物や湿性植物などの在来種の生息環境を奪ってしまいます。まだ侵入が確認されていない湿地や森に広がるリスクを減らすため、近くに住むみなさんの日常的な協力が必要です。



オオハンゴンソウ確認位置図(十和田八甲田地域全体)
■ = 国立公園範囲 ● = 確認されている地点

拡散防止・早期発見・早期駆除

水の流れ、車のタイヤなどで種が運ばれて分布を広げるといわれています。土や木を動かすことも原因の一つです。一度広がると駆除が大変難しくなるため、広げないための対策と早めの駆除が必要です。

オオハンゴンソウは特定外来生物

栽培や運搬、販売、野外に放つこと等が法律により原則禁止されており、違反すると個人の場合は最大で3年の懲役、300万円の罰金、法人の場合は最大で1億円の罰金が科せられます。



オオハンゴンソウから国立公園を守るため、駆除のご協力を！

続けることで
少しずつ減少します！

根絶には時間がかかります。続けることで少しずつ減少するので、毎年根気よく続けましょう。

